

基調講演

兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 竹内 和雄

皆さん、こんにちは。今日これから45分くらい私の話にお付き合いいただきたいと思います。よろしくお願ひします。今日は特に、インターネットの問題についてお話ししたいと思います。前半は、私が基調講演をします。意識合わせのために、子どもたちの実態をリアルにお話しするつもりです。その後、パネルディスカッションで対策を含めた議論をしたいと思いますので、よろしくお願ひします。今日は、子供たちのスマホとかガラケーとかのお話をします。分からないことがあったら、どんどん隣の方と相談したり、質問したりする機会にしたいと思っています。今日は、子供のネット使用の実態、ネットの危険についてお話しします。

1. 子どものネット使用の実態

ここでは「低年齢化」と「動画化」についてお話しします。

まず、「低年齢化」について。関西での7万人アンケート(2017)です。小1で既にスマホ持っている子が16%います。そこからどんどん伸びて中1で74%。小6から中1で30ポイント以上増え、ここで一番トラブルが起きます。聞き取り調査をすると、両親よりも、おじいちゃん、おばあちゃんが買う場合が多いです。特に父方のおじいちゃん、おばあちゃんが買うことが多いです。

次に、毎日ネット接続するのは、この小学校1年生で約5割います。彼らの多くは、3DS等の携帯ゲーム機からネット接続しています。学年が上がると毎日接続する割合が増え中1で87%。高校生になると9割を超えます。女子も男子とほぼ同じような傾向です。

一番接続する機器は、男子は、最初は携帯ゲーム機からネット接続していますが、小6くらいになるとスマホから接続するようになります。小学生のネット問題を考えるとき、ゲーム機について知っておく必要があります。

ここで、3DSとNew 3DSの違いを確認してみます。簡単に言うと、3DSは古い機種で、フィルタリングやネット遮断が無料でできます。それに対してNew 3DSは新しい機種で、フィルタリングされ、ネット接続もできない状態で最初は販売されています。設定を変えるには、親が32円をクレジットカードで振り込む必要があります。保護者の管理下に置けますから、New 3DSが良いと思いますが、多くの子供達は中古で3DSを買います。保護者にフィルタリングを設定されたり、ネットを切断させてしまうと困るからです。その辺り、私たちが知らないということが問題かもしれません。3DSは、ネットも、メールも、カメラ撮影も、買物もでき、YouTubeも見ることができます。

続いて「動画化」について説明します。今の子どもたちの投稿は、動画がメインになっています。

例えば 2013 年頃は、いわゆる「バカッター問題」（不適切投稿）が社会問題になりました。コンビニのアイスクリーム置き場やレストランの冷蔵庫に入ったりする写真が投稿され、「拡散」され「炎上」しました。それが今は、こういう投稿が、そういう若者の不適切な行動が動画で発信され、拡散、炎上しています。（動画再生）

中学生がコンビニのアイスクリーム入れに入っているものです。ご覧いただいているものにはモザイクをかけていますが、実際にはモザイクなしでネットに上がっています。もちろん顔が出ています。マスコミで盛んに報道されているアメフトの問題も動画があったからこそ、あそこまで大きく扱われているのだと思います。動画の訴求力の強さです。

子どもたちはミックスチャンネルやツイキャス、ティックトック等の動画配信サイトを積極的に活用しています。ツイキャス、つまりツイートキャスティングは、スマホ 1 台で実況中継できます。

（動画再生）

子供たちは盛んにこういうサイトを利用していますが、私たち大人の理解が十分でないことが実は大きな問題だと感じています。ツイキャスをしているから子どもが悪いというわけではなく、どういう利用をしていて、課題を含めて大人が把握、理解できているかが大きな課題だと思います。

次に、子どもたちに今大流行しているオンラインゲーム「荒野行動」を説明します。無人島に 100 人が降り立って殺し合います。生き残った者が勝ちです。最大 5 人で協力して殺し合うのですが、ボイスチャット（言葉で会話）しながらやっていきます。説明のために、ゲーム実況を見てください。

（動画再生）

武器を探しながら、殺し合います。昨日もある中学生に会いましたが、「しゃべりながらやるので楽しい」と言います。違う家にいながら、ボイスチャットでしゃべりながら、ゲームで落ち合って楽しめます。それぞれの役割があるので、途中で抜けられませんか。それが依存の大きな要因になっていると指摘する人も多いです。

2. ネットの危険

スクリーンをご覧ください。座間の事件の容疑者のツイッターのアカウントと言われているものです。「死にたい」とツイッターに書いた子が狙われたと報道されています。女子高生を集めて「死にたいって書く？」と聞きました。ほとんどの高校生が「うん、書く」「しょっちゅう書く」と言います。どんなときに死にたいと書くか聞いてみると、「テスト死んだ」「道でこけて恥ずかしくて死にたい」とか、日常的に「死」を使うと言います。また「ああ疲れた」の代わりに、「ああ死にたい」とか書く、と言います。大人は「死にたい」と聞くとびっくりしますが、子どもたちは「死にたいって書くぐらい普通だよ」と言います。

まだ、子どもたちは「『かまちょ』が死にたいって書く」と言います。「かまちょ」とは、「かま

ってちょうだい」の略です。人の関心を引きたい人を指す、元々はネットスラングです。さらに「かまちょが裏アカに書く」と言います。説明しましょう。裏アカと本アカがあります。本アカは本当のアカウント。裏アカは非公式なアカウントです。高校生に「どんな裏アカある？」と言くと、「趣味アカ」「愚痴アカ」「闇アカ」「鍵アカ」。趣味専用アカウント、愚痴を書くアカウント、自分の闇の部分を書くアカウント、鍵アカというのは、認めた人にしか見えないようなアカウントを言います。女子高校生の平均アカウント数（3年前調査）は3.4です。つまり普通の子が普通に裏アカを持っています。

続いてハッシュタグについてです。「#」です。「#ジャニーズ」「#タイガース」等です。「#死にたい」と書いた子が狙われたと言われています。事件後に、死にたいで検索してみました。そうするとたくさん出てきました。それぞれに多くのコメントもあります。「どうしたの、何か嫌なことでもあるの?」「どうしたんだい、人間生きてりゃいろいろあるよ。何があったか話してごらん、長い人生まだまだこれから。何かしらアドバイスはできるから」等、優しいコメントが続きます。

Twitterも対策しています。「死にたい」と今朝検索したら、「あなたの思いをそのまま聞かせて」と相談センターを紹介します。素晴らしい取組だと思いますが、完全にブロックする方法もあります。私たちの国の9人の命が失われたのです。そのあたりをしっかりと議論していく必要があると思います。実際、北海道等で座間の事件を模倣した犯罪が起こっています。「座間の事件を参考にした」と容疑者が話しているとマスコミで報道されています。「死にたい」とはき出せる場所も必要という意見もありますが、9人の命を考えると、せめて一時的にでも「死にたい」と書けないようにする選択肢について議論する必要はあると思います。

「ネットで困ったら誰に相談しますか」と中学生に質問しました。「先生」「警察」「親」「友達」から1つ選んでもらいました。先生は何位でしょうか.....。

正解は4位です。3位は「警察」。警察は個人情報を守ってそうだ、と言います。1位と2位ですが、ガラケー所持者とスマホ所持者で回答が違いました。ガラケー所持者の1位は「親」、2位は「友達」。一方スマホ所持者の1位は「友達」、2位は「親」。スマホ所持者は「親」には言いません。

「なぜ親や先生に話さないの?」と中学生に聞いてみました。答えは、「どうせ知らんし」「暴走するもん」「親や先生に相談したら、勝手に相手の家に怒鳴り込んだり、学年集会したりする」「そうするとかえって事態がややこしくなる」と言います。でも本当は聞いてほしいのです。子どもたちだけでは実はどうしようもないのです。この辺りについて、私たちは考えなければなりません。

今の子供たちはいろいろな悲しい現状があるけれども、相談するところすらないし、暴走されるからできない。最後に重要な問題提起をします。去年の9月、授業中にタブレットを見ていたところを注意された高校生が注意した先生に暴力をふるいました。その動画が日本中に広まっています。状況

をもう少し説明します。...とはいえ私の知識もネット上の情報からですので、正確な情報だとは限りませんが重要な事件ですので、そう断った上で、もう少し話します。

ネットでは、「暴力シーンを級友が動画で撮影して、LINE で昔の友達（中学の同級生？）に送った。その友達がツイッターで拡散した」と言われています。翌日、ネットで知った警察が逮捕し、しばらくして暴力をふるった高校生は自主退学したとされています。全く関係ない友達の友達が彼の人生を変えました。みなさん、どう思いますか。先生に暴力をふるったのですから、逮捕、退学も仕方ないのかもしれませんが。

もう一つ問題提起します。事件が起こった高校のホームページです。ホームページによるとこの高校はICT教育に力を入れていることがわかります。「文部科学省が推進しているICT教育にいち早く取り組み」とあります。全生徒にタブレットを配っているらしいです。諸説あるのですが、その配ったタブレットで動画を見ていたのではないかという説もあります。また、配られたタブレットで友達にLINEで送ったとも言われています。自分のスマホだったという説もあり、真偽のほどはわかりませんが、自分のスマホだったにしても、学校でネットを扱うことに慣れていたことは動かせない事実です。学校で配布したタブレットが暴力行為の遠因になってしまっているとしたら悲劇です。

まさに光と影です。子どもたちにICTを活用できる能力をつける必要があります。これはそうです。これからの情報化社会を生き抜いていく子どもたちには必須です。東京都は「BYOD」、つまり「Bring Your Own Device-自分のスマホを授業中に活用する-」をもう始めています。しかし、一方、学校にネット環境があると、今回のような事件が起こることも事実です。皆さんのお子さん、お孫さんは、学校で自分のスマホを使って勉強できますか？ 授業中にゲームやSNSをしたりしませんか？ 今の子どもたちにとって、かなり難しいことかもしれません。

スマホを使うか、使わないかの二分法は駄目です。何が危険で、何が便利か。どう考えていこうという辺りを、どこかで整理しなければいけない。ちょうど今、整理しなければいけない時期に来ていると思います。いろんなお立場の人がいて、100か0か、ではなく、30がいいのか、70がいいのか。そのあたり考えなければならないと思っています。一旦私の話は、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。